

総論 1

循環器救急疾患の症状

Point 1 症状から該当する救急疾患を想起できる。

Point 2 主な循環器疾患の急性期の典型的な症状を述べることができる。

Point 3 急性心不全の症状を述べるができる。

Point 4 ショックの症状を述べることができる。

はじめに

循環器救急疾患には循環動態の破綻例が多く、救命・救急センターやCCUで緊急な対処が必要である。

本章では各論に入る前に、一般的な症状について概説する。主な循環器救急疾患を表1に示す。

循環器救急疾患の主な症状

病歴が診断に重要な役割を果たすことは自明である。

ただし、心肺停止例や重篤な心不全、ショック例では、本人からの病歴聴取は不可能である。しかし、家人や目撃者などからの病歴が診断に有用となる。

胸痛

循環動態を破綻させるような、30分以上持続する胸痛をきたす主な疾患を表2に示す。

とくに**急性心筋梗塞** (acute myocardial infarction ; AMI)、**急性大動脈解離**、**肺塞栓症**は、必ず鑑別診断に挙げておかななくてはならない。

急性心筋梗塞 (AMI)

急性心筋梗塞の主な症状を表3に示す。心不全やショック、不整脈などの合併症を生じれば、合併症の症状も呈する。

急性大動脈解離

胸痛を訴えた場合、急性心筋梗塞とともに必ず除外すべき疾患である。主な症状を表4に示す。

肺塞栓症

まず、本疾患を疑うことが重要である。**深部静脈血栓症**と強い関連があり、以下の病歴に注意が必要である。

- 骨盤内手術や大腿骨手術後・長期臥床中 (臥床から歩行開始直後)
- 心不全・肥満・長期間のカテーテル静脈内留置
- 血小板増多症・脱水

表 1 主な循環器救急疾患

虚血性心疾患	急性冠症候群 (急性心筋梗塞, 不安定狭心症)
急性ポンプ機能不全	急性心不全 (肺水腫) 心原性ショック
大血管疾患	急性大動脈解離 大動脈瘤破裂 急性動脈閉塞

表 2 30分以上持続する胸痛を生じる主な疾患

- 急性心筋梗塞
- 急性大動脈解離
- 急性肺塞栓症
- 心膜炎 / 心筋炎
- 緊張性気胸
- 急性膵炎
- 消化性潰瘍穿孔
- 胆石症
- 食道破裂

表 3 急性心筋梗塞の主な症状 (文献¹⁾より引用改変)

典型例	通常 30 分以上持続する胸痛 前胸部に強度の胸痛や絞扼感、恐怖や不安感を伴う 喉、頸、肩、上肢に放散痛を伴うこともある
合併症状	冷汗、嘔気 (徐脈、血圧低下、ショック例) 呼吸困難 (左心不全例) 意識混濁、失神 (ショック例、不整脈例)
非典型例*	無痛例では全身倦怠感、嘔気・嘔吐、呼吸困難、ショックから発症することがある

*急性心筋梗塞例の1/3に胸痛がないことが報告されている。胸痛がない例は、とくに高齢者、糖尿病患者、女性に多いとされている。また、脳血管障害の既往例も無痛性になることがある。

表 4 急性大動脈解離の主な症状

痛みは突然で激烈である	
痛みが胸部から背部へ、また腰部へと移動すれば、まず本症を疑う	
各血管の閉塞・狭窄の症状を見逃さない	
Stanford A 型	心タンポナーデによるショック 大動脈弁逆流による急性心不全の症状の有無に注意

- 一過性の体位性下肢静脈うっ滞 (ロングフライト症候群)

なお、遺伝性の凝血能亢進疾患は若年者 (40歳以下) に多い。

肺塞栓症の主な症状を表5に示す。

胸痛をきたす他の疾患

その他、表6に示すような疾患を鑑別する。とくに心電図でST上昇をきたす、異型狭心症、たこつぼ型心筋症、

表 5 肺塞栓症の主な症状

突然の呼吸困難
胸痛

表 6 胸痛をきたす、その他の疾患

狭心症	突然の前胸部痛、漠然とした痛み 労作あるいは情動で誘発、短い持続時間 (15分以内)
異型狭心症	早朝安静時に生じやすい、30分持続することもある 飲酒後の翌朝に生じることがあり
心膜炎 / 心筋炎	感染の前駆症状あり
たこつぼ型心筋症	情動や過労などが誘因になることがある
胸膜炎	深吸気時の鋭い胸痛
带状疱疹	肋間神経痛、発赤を生じる前から胸痛がある
肋軟骨炎	限局する胸痛、圧痛もある
逆流性食道炎	水を飲み込むと軽減する胸部不快感

表 7 呼吸困難を呈する疾患

循環器疾患	急性心不全	左室収縮不全 (急性心筋梗塞, 急性心筋炎, たこつぼ型心筋症) 左室拡張不全 (高血圧性心不全など) 不整脈 (頻脈性・徐脈性) 急性弁機能障害 (感染性心内膜炎, 腱索断裂など) 慢性心不全の急性増悪 (弁膜症, 心筋症, 陳旧性心筋梗塞, 先天性心疾患など)
	肺塞栓症	
呼吸器疾患	胸痛あり	気胸, 胸膜炎
	胸痛なし	気管支喘息, 慢性呼吸器疾患の急性増悪, 異物誤嚥, 肺炎
神経筋疾患	Guillain-Barré 症候群, 筋萎縮性側索硬化症など	
血液疾患	著明な貧血	
その他	過換気症候群	

心膜炎、心筋炎には注意が必要である。

呼吸困難

表7に示す疾患を鑑別する。

急性心不全は、広範囲あるいは機械的な合併症をきたした急性心筋梗塞や心筋炎、重篤な不整脈、肺塞栓症などにおいて生じ、往々にしてショックを合併する。表8に、心不全の症状を示す。